

本プロジェクトの事業主体



たまエンパワー株式会社

創業：2015年

本社：東京都多摩市

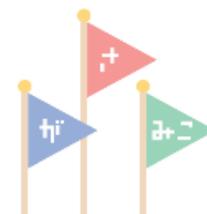
資本金：3000万円

代表者：山川勇一郎

事業：

- ・太陽光発電事業（屋根・営農型）
- ・O&M事業
- ・コンサルティング事業

※本プロジェクトの発電の事業主体



株式会社さがみこファーム

創業：2019年

本社：相模原市

資本金：2700万円

代表者：山川勇一郎

事業：

- ・観光農園事業
- ・生産・加工事業
- ・教育・研修事業

※たまエンパワーの関連会社

※本プロジェクトの営農の事業主体

- ▶ソーラーシェアリングはエネルギー・農業・地域の問題を同時解決できる大きな可能性がある。ただし、やり方次第でプラスにもマイナスにもなる
- ▶本プロジェクトの特徴：発電と営農を一体的に運営

本プロジェクトの経緯と設備概要



・本プロジェクトのフィールドである相模原市緑区青野原前戸地区は、140世帯が暮らす**中山間地の集落**である。

・**過疎化・高齢化**が進行し、最寄の公立の小中学校は1学年わずか7名。ただ、周辺一帯は神奈川県の水源地であり、水資源確保の観点からも、農地及び森林の維持・管理は重要な政策課題である。

・前戸地区の一角にある森に囲まれた農地(※左図：約5ha)は、地権者の大半が耕作を継続できず、農地の維持・管理に困っていた。

・地権者より農地を借り受け、2019年より事業を開始。本事業を通じて、**1.4haがブルーベリー畑を中心とした農地として再生**され、地域内外から農地に人が訪れるようになり、地域に賑わいが生まれている。

(2,000名/年・2023年実績)

設備概要

	設備容量(DC) (kW)	設備容量 (AC) (kW)	過積載率 (%)	運転開始 (年・月)	モジュール	栽培作物
前戸1号	85.66	49.5	173%	2020.8	片面・産業用	ブルーベリー
前戸2号	57.96	49.5	117%	2021.4	片面・短冊形	ブルーベリー
前戸3号	85.8	49.5	173%	2020.8	片面・産業用	ブルーベリー
前戸4号	42.16	38.5	109%	2021.4	両面・産業用	ブルーベリー
前戸5号	11.55	9.9	116%	2024.2	両面・産業用	ブルーベリー
前戸6号	29.7	24.75	120%	2024.5	両面・産業用	ブドウ
合計	312.83	221.65				

36種類・1,100本のブルーベリーの摘み取りが楽しめる ソーラーシェアリング型会員制体験農園『さがみこベリーガーデン』



食とエネルギーの地域生産
(地域共生型ソーラーシェアリング推進)



未来志向の栽培方法
(養液栽培による高品質・高効率化)



多様な雇用の創出
(地域住民、子育てママ、障害者等)



6次化へのチャレンジ
(加工品製造・販売/観光振興)



体験農園化
(賑わい創出と高付加価値化)



会員制農園
(地域配慮と法令順守と事業の両立)

地域共生の取り組み事例

【防災】



前戸自治会との災害時の電源無償供給協定の締結

- ・中山間地域の“共助”推進
- ・自立電源からポータブル電源への充電→ご近所でシェア
- ・防災訓練の定例化と、地域住民との交流と理解促進

【教育】



公立小中学校の職場体験受入・探究授業への協力

- ・地域の子ども達に地域に誇りを持ってほしい
- ・将来的に、地域に残って就職する受け皿に
- ・職員向け研修の受入

【障がい者雇用】

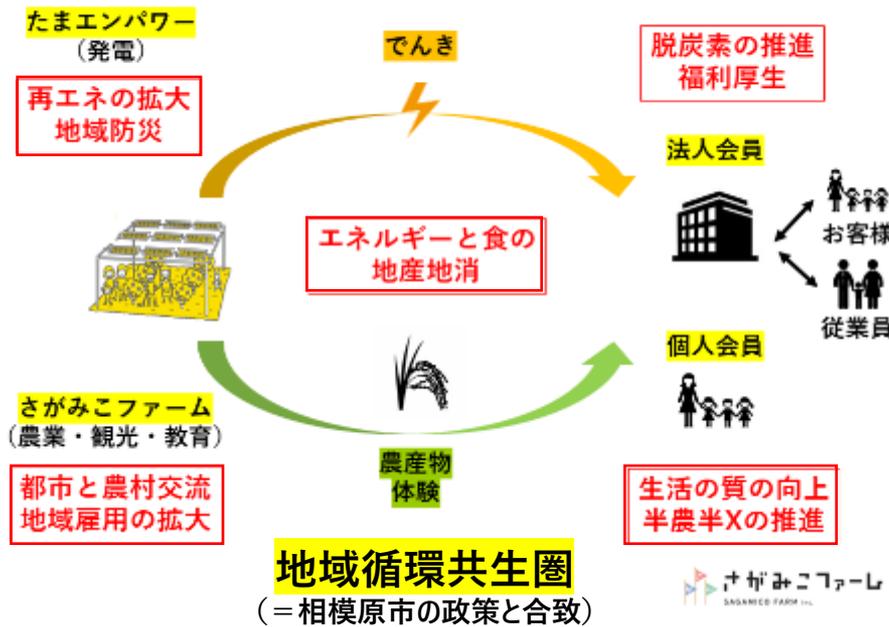


障がい者の就労支援B型事業所との連携

- ・ブルーベリージャム・ソースなどの加工品製造委託
- ・夏場の農園での農作業（草取り）の委託
- ・市内3事業所とそれぞれ連携

- ▶ 地域にとって、「来てくれてよかった」と思ってもらえる存在に
- ▶ 「よそ者としての自覚」を持って地域との関係を構築する

地域外の企業を巻き込んだ地域循環の創出 (電気・農産物・お金・人のおもい・・・etc)



- ・地域課題は、地域だけでは解決が困難
(=地域に寄り添って、共に歩んでくれる
地域外の主体が必要)
- 「電気を軸にした地域づくり」を推進
- そのために、「コーポレート会員」制度を
新たに創設 (=現在11社)

- ・コーポレート会員(生活クラブグループ)と
連携し、新たな電源開発をスタート
(Non-FITオフサイトPPA:2基・40kW 2024.3運転開始)
- 農地でワイン用ブドウの栽培を開始
- 次のプロジェクト計画が現在進行中
(2024年合併で発電SPC設立→順次建設予定(2MW))